

まち・ひと・しごと創生
第2次川崎町総合戦略

2020年3月
福岡県川崎町

目次

第1章 第2次川崎町総合戦略について	1
1. 策定の趣旨	1
2. 計画期間と進行管理	3
3. 総合戦略と総合計画の関係	4
第2章 第1次戦略の成果と課題	5
政策目標1 川崎町ならではのしごとと安定した雇用の創出	5
政策目標2 川崎町への新しいひとの流れによる定住促進と交流人口の拡大	5
政策目標3 川崎町における若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり ..	5
政策目標4 安全安心な暮らしを営むずっと住み続けたいまち 川崎町の実現	5
第3章 政策目標と基本戦略	6
政策目標1 川崎町ならではのしごとと安定した雇用の創出	6
政策目標2 川崎町への新しいひとの流れによる定住促進と交流人口の拡大	9
政策目標3 川崎町における若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり ..	12
政策目標4 安全安心な暮らしを営むずっと住み続けたいまち 川崎町の実現	15
【資料】	17

第1章 第2次川崎町総合戦略について

1. 策定の趣旨

人口減少・少子高齢化の進展や東京一極集中の継続により、全国的に地方創生への取組みが求められるなかで、国は平成26(2014)年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、その1年後には福岡県も「福岡県人口ビジョン・地方創生総合戦略」をそれぞれ策定しました。

それまでも人口減少の歯止めに取り組んできた本町では、これら国や県の動きとも連動し、また、それを追い風にして、取組みをさらに加速していくため、人口の将来展望を踏まえ、「第1次川崎町総合戦略」(以下「第1次戦略」という。)を平成28(2016)年3月に策定しました。

この第1次戦略をもとに、町民をはじめ企業や関係団体等と、本町の現状やめざすべき方向、目標等を共有し、一体となって「雇用」や「定住促進」、「結婚・出産・子育て」、「安全・安心の快適な暮らし」の分野における取組みを進めてきたところです。

農業分野における地域商社の創業、観光を中心とした交流人口の拡大など一定の成果を得たところですが、人口の流出は拡大化の傾向を示し、事業所も個人企業等が減少しているなど、将来にわたって活力ある地域社会を維持していくための取組みは緩められない状況にあります。

一方、第1次戦略策定後、未来技術^{※1}の進展、働き方改革、外国人との共生など、社会経済状況は大きく変化するなか、平成27(2015)年9月には、国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、先進国と開発途上国がともに取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標としてSDGs(持続可能な開発目標)が掲げられました。SDGsは、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、経済、社会、環境をめぐる広範な課題に統合的に取り組むものであり、地方創生の取組みにもつながります。

以上を踏まえ、第1次戦略の成果と第2次に向けた課題を検証するとともに、第6次川崎町総合計画と連動する形で、SDGsの考え方^{※2}も含めた見直しを行い、「第2次川崎町総合戦略」(以下「第2次戦略」という。)を策定するものです。

なお、第2次戦略は、第6次川崎町総合計画がめざすSDGsの17の目標のうち7つの目標と強い関係をもっており、持続可能で多様性と包括性のある地域社会の実現をめざし、地方創生の取組みの一層の充実・進化を図ります。

※1：情報通信技術など Society5.0 に向けた技術のこと。各々の地域特性に応じて有効に活用することで、モノやサービスの生産性や利便性を飛躍的に高め、産業や生活等の質を大きく変化させ、魅力を向上させるものと期待される。

※2：第2次戦略では、国の横断的目標②の「新しい時代の流れを力にする」に対応するものとして、SDGsの実現など「持続可能なまちづくり」を設定。

第2次戦略とSDGsの目標の関係



農村型スモールビジネスの拡大による持続可能な農業の推進



町民誰もが生涯にわたり心も体も健康で幸せに過ごせるスマートウェルネスシティプロジェクトの実施



小中学生の学力向上をめざすプロジェクトの実施



ハード・ソフト両面による産業基盤の整備(情報基盤の充実、起業支援等)



安全安心な暮らしを営むずっと住み続けたいまち 川崎町の実現



特色ある教育システム支援による子どもの居場所づくり等の推進

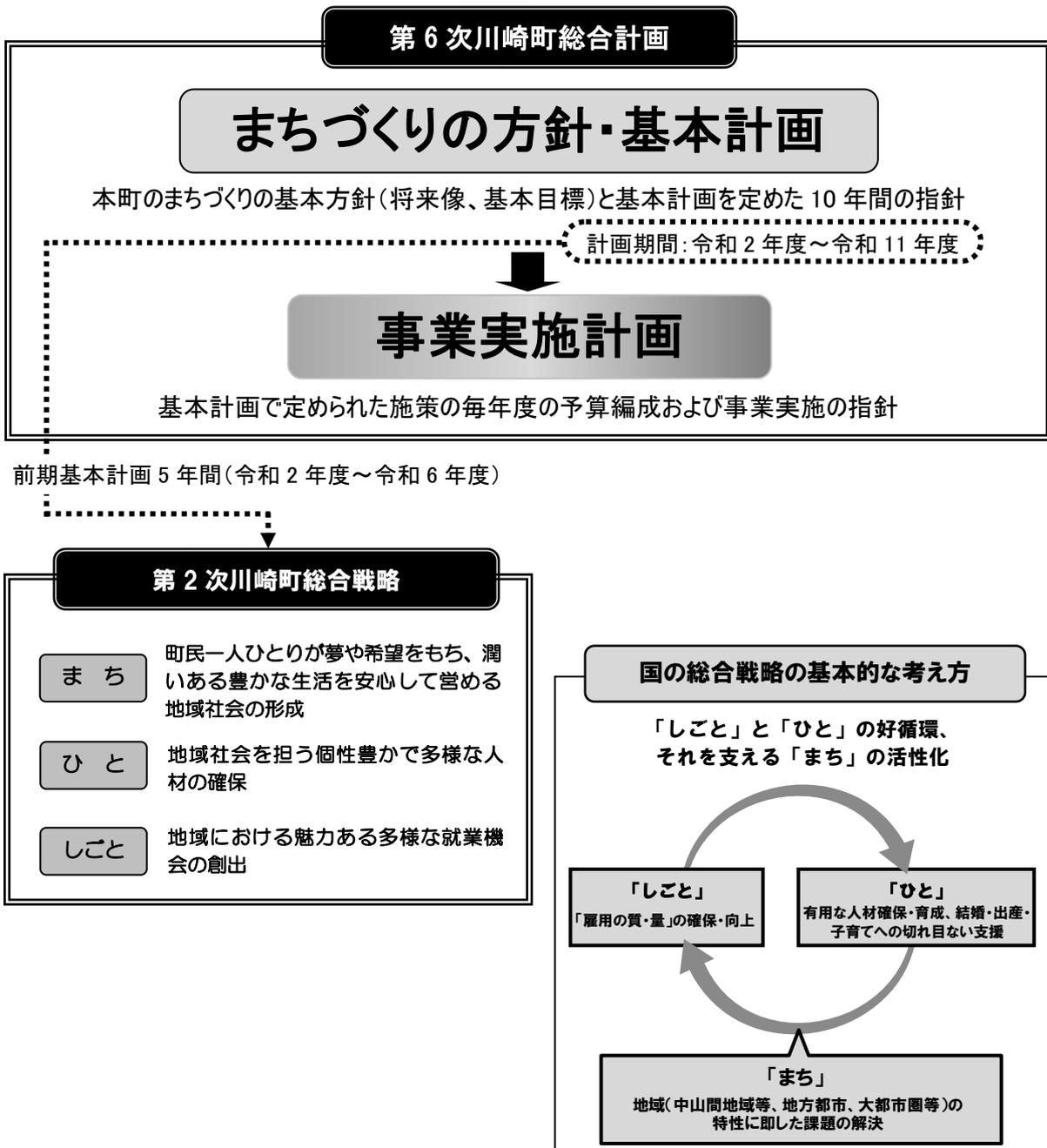


町内のあらゆる資源を活用した「地場産業の活性化」等の推進

3. 総合戦略と総合計画の関係

「第2次川崎町総合戦略」は、「雇用を確保する」しごとづくり、「地域に愛着をもつ」ひとづくりで、「いつまでも健康で住み続けられる」まちづくりを実現するという側面から、総合計画の施策のうち、重点的・横断的に取組む具体的な施策・事業を示したものです。

■第2次川崎町総合戦略と第6次川崎町総合計画の関係■



第2章 第1次戦略の成果と課題

政策目標1 川崎町ならではのしごとと安定した雇用の創出

農業分野の地域商社が立ち上がり農村型スモールビジネスを創出、超高速ブロードバンド環境も整うなど、川崎町ならではのしごととして、今後の発展が期待されます。

一方で、個人企業等を中心に事業所の減少は続いており、雇用も減少しています。

新たな産業を雇用の受け皿として発展させていくとともに、既存の商工業事業所の経営改善、新規事業の創出などをさらに強力に推し進めていく必要があります。

また、拡大しはじめた交流人口を活用した観光産業も視野に入れていく必要があります。

政策目標2 川崎町への新しいひとの流れによる定住促進と交流人口の拡大

地域資源の掘り起こしとネットワーク化が図られ、観光入込客数もおおむね順調に増加するなど、他の地域との交流の素地が形成されつつあり、第1次戦略における『魅力の「見える化」』は大きな役割を果たしたと考えられます。

今後は、5年間で育ちはじめた交流人口をさらに拡大し、定住に結び付けていく取組みが求められます。

政策目標3 川崎町における若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり

学力向上推進事業等によって学力は向上し、子どもの居場所が確保されるなど教育・子育て環境も整ってきましたが、今後もさらなる向上をめざし事業を継続します。

合計特殊出生率の目標は達成しているものの、出生数は低下する傾向がみられるなど、予断を許さない状況もあることから、転出超過の縮減、解消に向け、保育環境のさらなる向上を図るとともに、地域への愛着をもった人づくりに取組みを広げていく必要があります。

政策目標4 安全安心な暮らしを営むずっと住み続けたいまち川崎町の実現

歴史と文化が薫る町民の活動や世代間交流を進めるとともに、町内移動のための公共交通を維持してきました。情報社会に欠かせない超高速ブロードバンド環境も確保するなど一定のインフラ整備も進みましたが、買い物環境も含めた適切な利便性の確保には至らなかった点もあります。

雇用を確保するだけでなく、住み続けたいと思うことができる地域との関係、住環境、歴史文化の保全等を進めていく必要があります。

第3章 政策目標と基本戦略

政策目標1 川崎町ならではのしごとと安定した雇用の創出

※国の基本目標①：稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする

人口減少による負の連鎖を克服していくためには、若者をはじめとした町民が、働く場を求めて町外に出ざるを得ない状況を回避し、地場産業の振興を図り、雇用に創出することが重要です。

町内のあらゆる資源を活用し、「地場産業の活性化」を進めていくとともに、引き続き農業の6次産業化や産学官の連携による新たな産業の創出等、本町の強みを活かした産業の活性化を進めていきます。

	内 容	基準値	目標値
数値 目標	企業数 (総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」)	518 (H28(2016)年)	570 (R6(2024)年)
	農業産出額 (農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」)	58,000万円 (H29(2017)年)	61,000万円 (R6(2024)年)

(企業数の目標値は据え置き。農業産出額は第1次戦略の期間伸び率を用いて設定)

【基本戦略① 農村型スモールビジネスの拡大】



1 内容

SDGs (持続可能な開発目標)

第1次戦略で創出した農業分野の地域商社が、本町における農業分野での起業モデルともなるように事業継続・拡大を進め、企業型農業の普及をめざします。

また、後継者や新規就農者の育成など、人づくりや農業基盤の強化を図るとともに、商業等農業以外の分野における新規事業の創出に向けた支援を進めます。

2 施策パッケージ

(1) 「稼ぐ」農業プロジェクトの実施

地域農業商社事業の展開・拡大を推進し、農村の営みを通じて守られてきた美しい景観や自然環境、美味しい農産物や加工品等の地域特性を活かし、継続的に稼ぐことのできる産業に育てていく、先導モデルの構築をめざします。

農業者の支援、後継者・担い手育成とあわせ、耕作放棄地の解消などを進めるとともに、農業を余暇的・教育的に体験するなど、観光・教育分野とも協働した農地の多角的活用についても検討、推進を図ります。

(主な取り組み)

- ・地域農業商社事業の展開・拡大
- ・農業次世代人材に対する支援

・観光・教育など異分野と連携した新規事業の創出に向けた取組み など
(重要業績評価指標 (KPI))

・新規就農者数： 5人 (H30(2018)年度) → 10人 (R6(2024)年度)

注：基準値はH30までの延べ数。目標値は期間新規就農者を加えた総数

(2) 新規事業創出に向けた企業支援

特産物・特産品開発やイベントとのコラボ、農家民泊等、本町の資源を活用した新たな
産品・事業の創出の取組みを促進するため、初期負担の軽減化支援などを図ります。

(主な取組み)

- ・豊前川崎商工会議所による創業支援セミナーの実施支援
- ・川崎町観光協会による農泊モデル事業の実施支援
- ・地域農業商社事業の展開・拡大 (再掲)
- ・特産品の開発支援
- ・かわさきパン博等イベントに対する支援
- ・農業生産者等への包括的支援
- ・空き店舗等における創業支援事業の拡充検討 など

(重要業績評価指標 (KPI))

・創業支援事業利用件数：

創業支援事業拡充検討開始 (R1(2019)年度) → 5件 (R6(2024)年度)

注：目標値は計画期間の総数

【基本戦略② ハード・ソフト両面による産業基盤の整備】



1 内容

SDGs (持続可能な開発目標)

JR 豊前川崎駅および駅周辺の都市インフラや整備された超高速ブロードバンド環境などの新たな都市インフラを効果的に活用し、起業や企業誘致を進める環境の形成を図ります。

また、企業・事業者への研修・講習の支援、農業後継者・担い手への支援等、産業人材の育成を図り、雇用の場の拡大と町内産業の活性化をめざします。

2 施策パッケージ

(1) 産業基盤のハード整備

駅や駅舎、商店街など都市インフラの再構築を含めて有効活用を図るとともに、超高速ブロードバンド環境の利便性向上など、起業や企業誘致を効率的に進めていくための環境を形成します。

また、町民誰もが生涯にわたって健康に暮らせる環境をつくるスマートウェルネスシティ(健康^{※1}都市)プロジェクト^{※2}の実施や、地域拠点プロジェクト^{※3}として、交流人口の拡大にも資

する道の駅等新たな産業基盤を国道 322 号バイパス沿いに整備します。

※1：個々人が健康かつ生きがいをもち、安全安心で豊かな生活を営むこと

※2：政策目標 4（戦略 2）参照 ※3：政策目標 3（戦略 1）参照

（主な取組み）

- ・スマートウェルネスシティプロジェクトの実施
- ・Wi-Fi スポットの整備
- ・道の駅整備等地域拠点プロジェクトの実施
- ・De・愛周辺観光交流公園の整備 など

（重要業績評価指標（KPI））

・町内主要観光施設消費額：

20,269 万円（H29(2017)年） → 23,300 万円（R6(2024)年）

（2）起業・経営支援ソフトの充実と活用推進

農業、商工業、観光など町内のあらゆる産業に関する起業・経営支援ソフトの充実を図るとともに、本町ならではの制度・仕組みの活用を、豊前川崎商工会議所や川崎町観光協会など関係機関とも連携して推進します。

（主な取組み）

- ・GAP（農業生産工程管理）の普及・促進
- ・農業生産者等への包括的支援（再掲）
- ・遊休農地活用、高収益作物への転作等への支援
- ・中小企業の人材育成支援
- ・空き店舗等における創業支援事業の拡充検討（再掲） など

（重要業績評価指標（KPI））

・中小企業人材育成事業活用件数： 3 件（H30(2018)年度） → 5 件（R6(2024)年度）

政策目標 2 川崎町への新しいひとの流れによる定住促進と交流人口の拡大

※国の基本目標②：地方とのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる

日本の総人口の減少が見込まれるなか、町外に転出した人口に相当する人を他の地域から取り戻すことは大変な労力を要します。経済行為の一部は人との関係のなかで発生することに着目し、観光等で訪れる交流人口を安定的に確保し、町の経済につなげていきます。

第1次戦略期間に獲得した新しい人の流れの維持・拡大を図りながら、公的支援で立ち上がった産業関連事業は、将来、民間事業として自立するよう取組みます。

また、訪れた人に本町を移住先として選択してもらえるよう、基礎的な住環境の確保とあわせ、住宅の選択肢や経済的メリットを感じられる仕組みを用意していきます。

数値目標	内容	基準値	目標値
	交流人口（観光入込客数） （福岡県「観光入込客推計調査」）	265 千人 （H29(2017)年）	342 千人 （R6(2024)年）

（目標値は第1次戦略の期間伸び率を用いて設定）

【基本戦略① 川崎町へのひとの流れの強化と戦略化】



1 内容

SDGs（持続可能な開発目標）

本町は柔道、剣道、サッカーなどさまざまなスポーツが盛んで、全国規模で活躍している選手もいます。その強みを活かし、町内スポーツクラブや小中学校の対外試合に対する支援、合宿誘致などの検討を進め、人の流れの拡大、町民のおもてなしによる川崎町のファンの確保をめざします。

また、かわさきパン博や豊かな自然資源を活用したウォーキング、農家レストランや観光農園等の集客力のあるイベント・施設の拡充および支援強化に努めるとともに、DMO「田川広域観光協会」による活性化などにより、交流人口の増加をめざします。

2 施策パッケージ

（1）「アスリート輩出の地」を活かしたまちづくり

全国各地で本町出身のスポーツ選手が活躍している特長を活かし、青少年を中心とした町内でのスポーツ交流試合の実施支援、合宿の誘致などに取組む、スポーツ交流人口強化プロジェクトを実施します。

（主な取組み）

- ・スポーツ交流人口強化プロジェクトの実施

（重要業績評価指標（KPI））

・町内体育施設*利用者数：95,701人（H30(2018)年度）→ 100,000人（R6(2024)年度）

※：中央体育館、町民会館、B&G、運動公園

(主な取組み)

- ・UIJ ターン等移住推進プロジェクトの実施
- ・地域と連携した空き家・空き地情報の提供 など

(重要業績評価指標 (KPI))

・5年間[※]の転出超過数： 1,025人 (H30(2018)年) → 850人 (R6(2024)年)

※：評価年を含む前5年間を指す

政策目標3 川崎町における若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり

※国の基本目標③：結婚・出産・子育ての希望をかなえる

基礎的な学力を確保していくと同時に、次世代を担う社会の宝である子どもたちが健やかに成長し、人とのかかわりのなかで地域に対する愛着を、学校・家庭・地域の関係者の協力、連携のもとで育ていける本町ならではの子育て支援体制の構築を図ります。

また、子育てをする家庭が仕事との両立を図ることができるよう、子育ての一義的な責任は家庭にあることを基本としながらも、家庭の負担を軽減し、若い世代が出産や子育てに希望をもてる地域の実現をめざします。

数値 目標	内 容	基準値	目標値
	合計特殊出生率 (厚労省「人口動態統計」, 福岡県「福岡県の人口と世帯年報」)	1.74 (H30(2018)年)	1.80 (R6(2024)年)

(基準値はH26～H30の平均。目標値は人口ビジョンにおける人口推計条件を引用)

【基本戦略① 魅力ある教育環境の構築】



SDGs（持続可能な開発目標）

1 内容

本町の自然豊かな郷土のなかで調和のとれた人間形成をめざす教育内容を充実させるため、地域に根ざした特色ある教育を推進します。

学校・家庭・地域が協力し、安全で安心な環境のなかで子どもたちを育てるとともに、学力の向上はもとより、自然や農業に触れ合える教育、力強く生き抜ける人間力を育てる教育等、多面的な教育を推進します。

2 施策パッケージ

(1) 学力向上プロジェクトの実施

全国学力・学習状況調査で全国、県平均を大きく下回っていた学力は、ほぼ筑豊圏域平均まで向上しました。引き続き学力向上をめざして町主催の土曜無料塾「土曜の風」や「放課後子ども教室」を実施し、学習習慣の定着を図るとともに、民間学習塾のノウハウの活用を検討するなど、取組みを強化します。

(主な取組み)

- ・土曜無料塾「土曜の風」の実施
- ・地域ボランティア活用による「放課後子ども教室」への支援
- ・小中学校へのALT※講師派遣
- ・民間学習塾ノウハウの活用検討 など

※：外国語指導助手

(重要業績評価指標 (KPI))

・全国学力調査の平均正答率「計」

川崎町 (H30(2018)年度) : 小学校 国語 : 47.0%	→	県平均 (R6(2024)年度)
同 算数 : 41.0%	→	同上
中学校 国語 : 58.5%	→	同上
同 数学 : 41.5%	→	同上

(2) 特色ある教育システムへの支援

学校・家庭・地域が協力し、安全で安心な環境のなかで子どもたちを育てるため、学校以外において放課後に立ち寄れる場所の開設や、さまざまな体験活動を通じた将来のリーダー育成、農業をはじめモノづくりなどのさまざまな仕事を通じた自然や命の大切さ、働くことの喜びを感じさせる体験事業に対する支援を行います。

また、第1次戦略における取組みの継続・拡充を進めるとともに、子どもたちの遊びや学習を、人生経験豊富な高齢者等との交流のなかで展開できる場所を提供する、地域拠点プロジェクトに着手します。

(主な取組み)

- ・居場所の設置・運営に対する支援
- ・仕事体験事業の検討、実施
- ・道の駅整備等地域拠点プロジェクトの実施（再掲） など

(重要業績評価指標 (KPI))

・放課後子ども教室[※]講座数 : 196回 (H30(2018)年度) → 200回 (R6(2024)年度)

※ : アンビシャス広場

【基本戦略② 若い世代における生活支援の強化】



1 内容

SDGs (持続可能な開発目標)

各地で結婚・出産・子育てに関する支援が普及しているなかで、特に子育て支援に関する国の制度も充実が図られています。このため、国の制度等によらない本町独自の支援をパッケージ化するなど、他自治体との違いをわかりやすく示し、使いやすい支援を行います。

2 施策パッケージ

○ 新婚生活・子育て環境の整備

新婚世帯の敷金等の一部を補助するなど金銭的な支援や、未就学児と保護者を対象とした子どもの健全ですこやかな成長と保護者の不安を取り除く施策を実施します。

乳幼児等の見守りについて、保護者等からの相談受付のほか、毎月の訪問面談など本町ならではのプッシュ型支援プロジェクトを検討、実施します。

(主な取組み)

- ・プッシュ型支援プロジェクトの検討、実施
- ・新婚世帯の住宅確保時の費用補助
- ・未就学児と保護者を対象とした「わくわく広場」「すこやか講座」の運営
- ・子育て講座の運営 など

(重要業績評価指標 (KPI))

- ・ 20 歳～40 歳代の 5 年間※の転出超過数：

733 人 (H30(2018)年) → 630 人 (R6(2024)年)

※：評価年を含む前 5 年間を指す

政策目標4 安全安心な暮らしを営むずっと住み続けたいまち 川崎町の実現

※国の基本目標④：ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

人口減少が進むなか、限られた財政状況で、公共施設や道路、病院、住宅、公共交通等の社会資本ストックの有効活用を図りながら、防災や自然環境づくり、町民の生きがいつくり等を進め、「住みやすく暮らしやすい」魅力あるまちにしていくことで、町民の満足度を高め、若い世代の地域定着を図ります。

数値	内容	基準値	目標値
目標	川崎町に住み続けたいと感じる人の割合 (住民アンケート調査)	34.3% (R1(2019)年)	50.0% (R6(2024)年)

【基本戦略① 住みやすい地域づくりの推進】



1 内容

SDGs (持続可能な開発目標)

「生涯活躍のまち」を視野に入れながら、地域の優れた歴史・文化資源等を保存および活用し、豊かな心と郷土愛を育むとともに、町民のスポーツや囲碁、将棋等の娯楽の推進による世代間の交流を促進します。

また、心豊かな地域社会を築き、「地域に愛着があり、このまちに住んでよかった」と町民が思えるような文化的で住みやすいまちづくりをめざします。

2 施策パッケージ

(1) 歴史と文化によるアイデンティティの再構築

新しい文化の創造、国際交流を推進するため、「雪舟」をキーワードとした文化交流活動を支援するとともに、地域に根付いた伝統文化を継承するため、関心と理解を深める活動を支援し、郷土愛を育み、文化的で住みやすい環境の形成を図ります。

(主な取り組み)

- ・日中交流水墨画公募展の充実
- ・川崎町まちづくり活動支援基金の活用推進
- ・川崎町ならではの盆踊りの継承支援 など

(重要業績評価指標 (KPI))

- ・盆踊り大会運営組織への加入団体数：

運営組織設立検討開始 (R1(2019)年度) → 10団体 (R6(2024)年度)

(2) 世代間交流の推進

高齢者と子ども等の世代間のネットワークの構築と交流による心豊かな地域社会を築くため、心身の健全な発達を促すグラウンドゴルフやカラーリング^{※1}、豊かな心を育むこと

に加え思考力や創造力を鍛えることのできるマインドスポーツ（囲碁・将棋・競技カードゲーム・ボードゲーム等）など、幅広い世代が参加する大会等を開催します。

また、その活動拠点の一つを整備する、地域拠点プロジェクト^{※2}に着手します。

※1：カローリング（curolling）とは、氷上ではなく室内でカーリングができるように考案されたニュースポーツで、1993年に名古屋市にあるベアリングメーカー、中部ベアリング株式会社代表取締役の田中耕一（現日本カローリング協会理事長）が考案したもの。カローリングの名は「軽やかにローリング（回転する）」として命名された。

※2：政策目標3（戦略1）参照

（主な取組み）

- ・多様な世代が参加する各種大会の開催
- ・道の駅整備等地域拠点プロジェクトの実施（再掲） など

（重要業績評価指標（KPI））

・多世代交流イベント数： 6件[※]（R1（2019）年度） → 8件（R6（2024）年度）

※：グラウンドゴルフ大会、町民ハイキング、カローリング大会、駅伝大会、マラソン大会、将棋大会

【基本戦略② 住みよい社会に向けた基盤整備の充実】



1 内容

SDGs（持続可能な開発目標）

心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持といった効果のあるウォーキング等をスマートウェルネスシティプロジェクトによって普及を図り、ヘルスエコツーリズムとして観光産業化につなげます。

また、超高速ブロードバンド環境の利便性向上を図るとともに、交通対策について、鉄道事業者と連携した整備を推進します。あわせて、文化財の保護や観光文化施設の整備を推進し、交流が活発で文化の薫り高く、都市基盤が整ったまちをめざします。

2 施策パッケージ

○ 住みやすい環境の整備

町民誰もが生涯にわたって医療に頼らずに心も体も健康で幸せに過ごせるまちをめざし、駅舎等の周辺整備を含め、運動する場所や機会を整備し、歩きたくなる環境づくりを進め、住んでも、訪れても「健幸」になれる健幸都市川崎をめざす、スマートウェルネスシティプロジェクトに着手します。

また、住みやすい環境の維持・向上を図るため、Wi-Fi スポットの整備、地域バス交通の確保の推進などに取組みます。

（主な取組み）

- ・スマートウェルネスシティプロジェクトの実施（再掲）
- ・Wi-Fi スポットの整備（再掲）
- ・地域交通対策の推進 など

（重要業績評価指標（KPI））

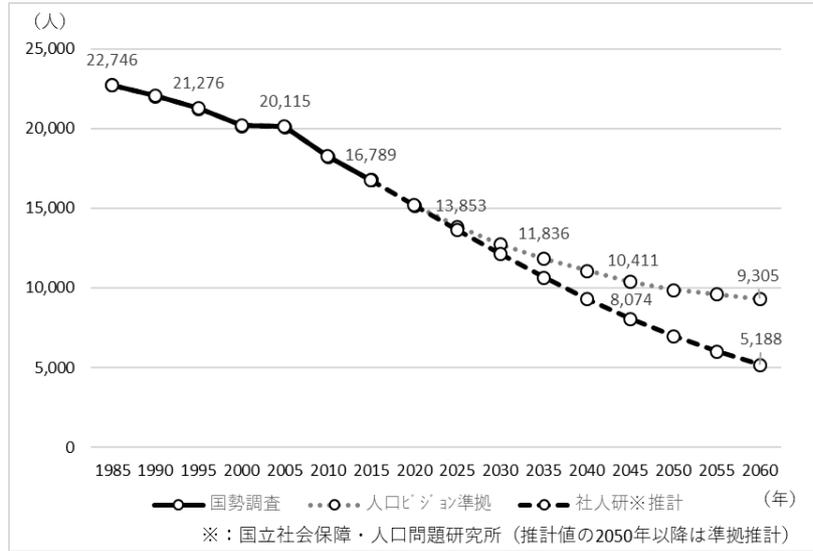
・ふれあいバス利用者数： 26,872人（H30（2018）年度） → 29,000人（R6（2024）年度）

【資料】

1. 人口の将来見通し

- 国立社会保障・人口問題研究所による平成 27 (2015) 年から令和 42 (2060) 年までの将来人口推計は右図のとおりです。(令和 32 (2050) 年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計に準拠した国の推計値)
- 「人口ビジョン準拠」の推計は、平成 28 (2016) 年 3 月に本町が策定した人口ビジョンに準拠して独自に行ったものです。

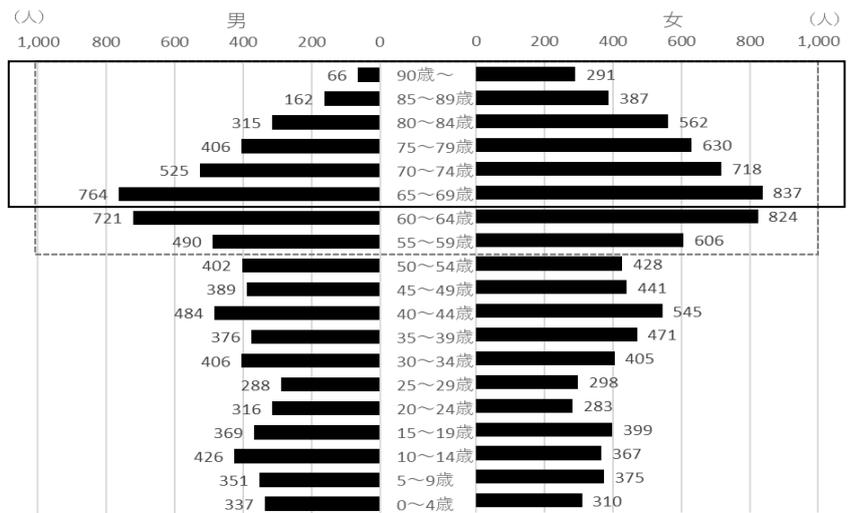
人口の推移と将来見通し



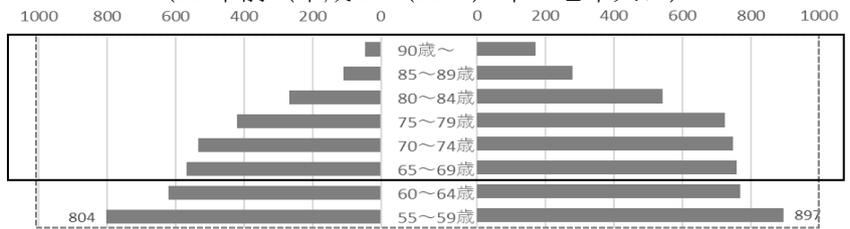
注：令和 1 (2019) 年 12 月末の住民基本台帳による人口は 16,428 人

5 歳階級別人口 (平成 27 (2015) 年)

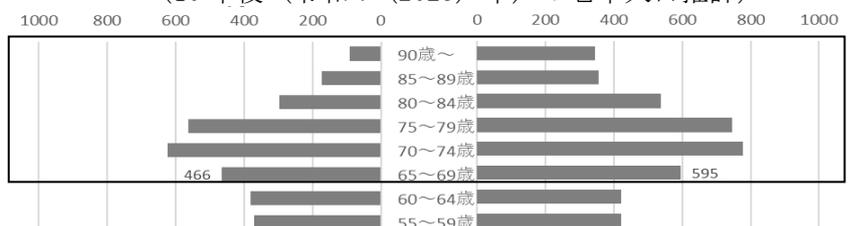
- 平成 27 (2015) 年国勢調査による 5 歳階級別人口は右図のとおりです。
- 老年人口 (65 歳以上) に該当する年齢階級の 10 年前 (平成 17 (2005) 年) の状況や、10 年後 (令和 7 (2025) 年) に老年人口に該当する年代の構成をみると、今後老年人口は急激に減少していくことが予想されます。



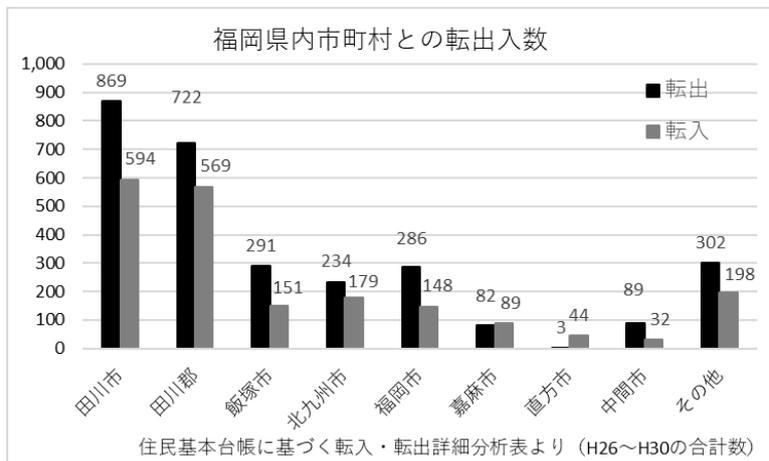
(10 年前 (平成 17 (2005) 年) の老年人口)



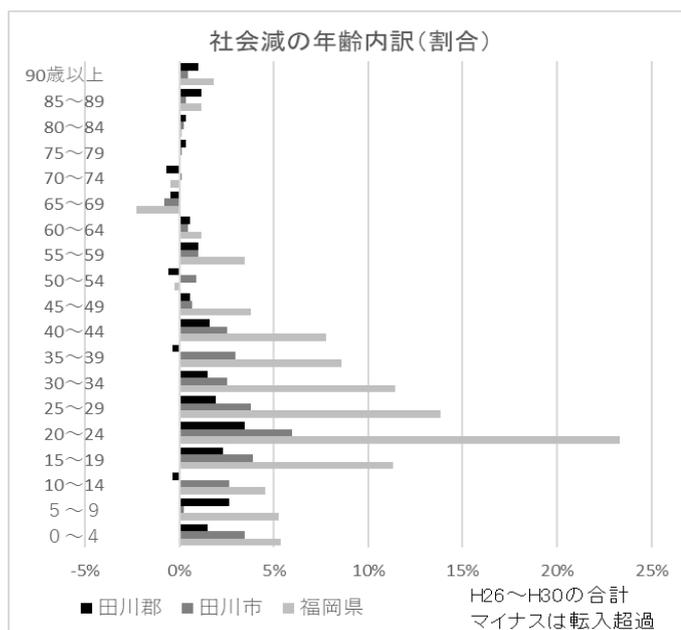
(10 年後 (令和 7 (2025) 年) の老年人口推計)



- 平成 26 (2014) 年から平成 30 (2018) 年の 5 年間の社会移動は、転出の 85%を福岡県内が占めています。福岡県内は転入も 84%を占めており、県内各市町村間の移動が中心です。
- 5 年間の社会移動総数は 1,025 人の転出超過となっており、平成 21 (2009) 年から平成 25 (2013) 年の 886 人の転出超過に比べ、人口流出はさらに進んでいます。
- 県内移動では、田川市郡の合計は転出・転入とも過半を占めています。



- 転出超過の年齢は 15~34 歳の割合が高くなっています。



2. 第1次戦略の進捗状況

(1) 政策目標1 (川崎町ならではのしごとと安定した雇用の創出)

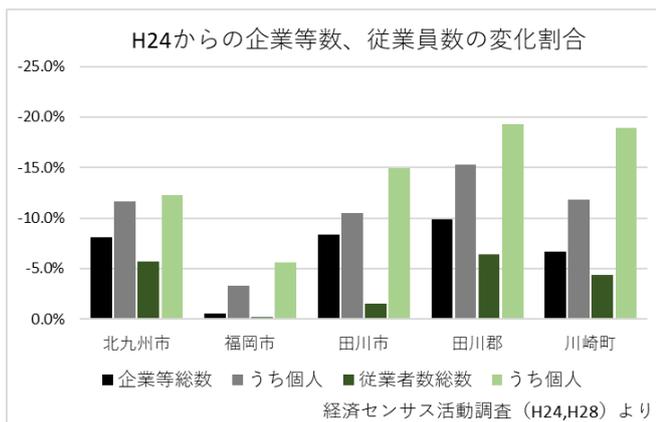
(概要)

- ・農業分野における地域商社機能を発揮するため、(株)川崎 De・愛を「(株)川崎アグリ」に改称して事業を実施中*であるほか、超高速ブロードバンド環境を整備しました。
- ・国・県のエコファーマー制度に加え町独自の指標を設定した制度を確立するとともに、学校給食に地元の食材・食品を積極的に取り入れるようにしました。

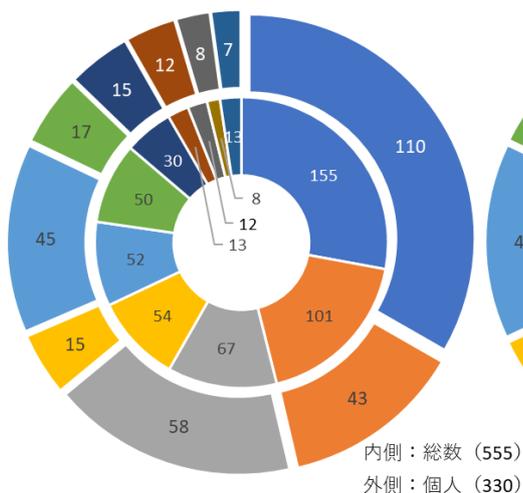
※：平成30年3月30日認定の地域再生計画に基づくもの(令和2年度まで)。農地の作業受託事業から生産事業に関する取組みを始めた。将来は、加工・販売促進事業に展開していく予定。

(目標達成状況)

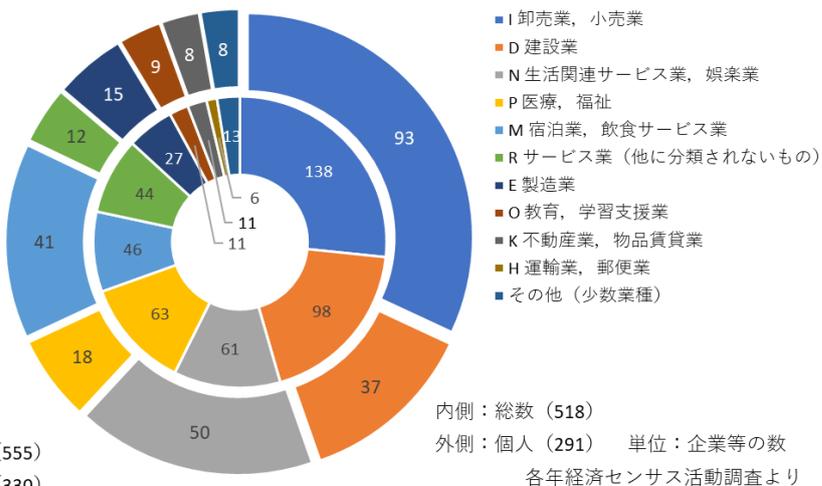
- ・目標企業数570に対し、平成28(2016)年時点の企業数は518で、目標達成率は90.9%です。企業数は平成24(2012)年から4.4%減少しています。
- ・期間中の企業等総数の減少幅は、田川市郡を下回っています。本町は、総数に比べ個人の減少幅が大きくなっているのが特徴です。経営組織別にみると法人は2増加しているのに対し、個人企業等は39減少しています。



大分類別企業等の数 H24



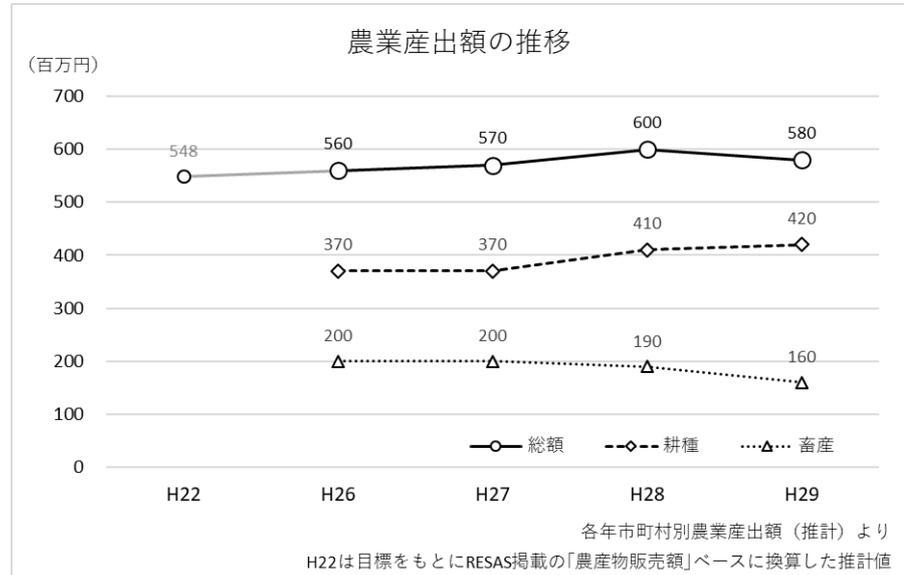
H28



- ・農産物販売額(総額)は、平成22(2010)年から令和1(2019)年に向けて4.9%増加することを目標としており、平成29(2017)年時点では5.8%*増加していると想定されま

す。

※：平成 28 (2016) 年から、RESAS 掲載データの農林業センサスに基づく農産物販売額が、平成 26 (2014) 年から毎年公表されることとなった農業産出額に変更されたことに伴い、平成 26 (2014) 年を基準年とし、目標伸び率を用いて算出した農業算出額をもとに計算した換算値。



(2) 政策目標 2 (川崎町への新しいひとの流れによる定住促進と交流人口の拡大)

(概要)

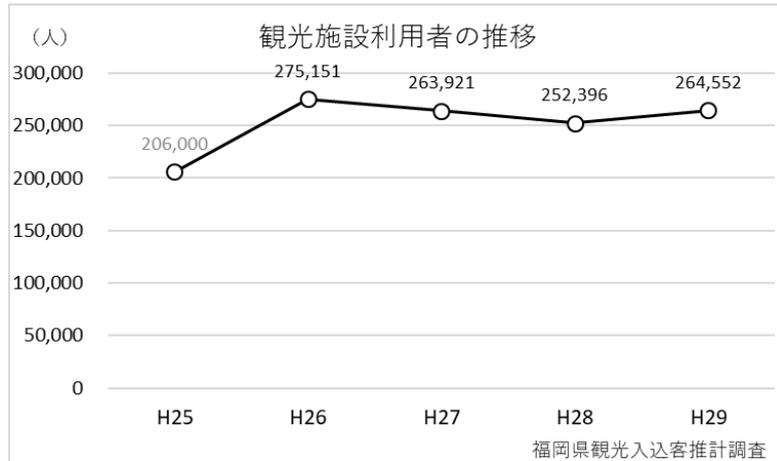
- ・川崎町郷土愛育成プログラム推進事業^{*1}を実施し、かわさきグルメ手帖、多言語表記の観光パンフレットを作成したほか、SNS 等による情報発信を行いました。
- ・明蓬館高等学校では農業体験の実施など、体験型・発見型・創造型の充実したスクーリングを行っています。
- ・かわさきパン博、観光リンゴ園、農家レストランなど本町とのかかわりが深い施設等における交流人口拡充支援を実施しました。
- ・国指定名勝庭園「藤江氏魚楽園」のライトアップ整備によって、平成 29 (2017) 年の夜間入込客は平成 22 (2010) 年の 3 倍以上に及びました。
- ・日田彦山線沿線 7 自治体合同によるひたひこウォーキングのほか、田川広域連携事業として「日本版 DMO」の設立・事業^{*2}に着手、現在進行中など、広域観光の充実が進んでいます。

※1：平成 28 年 12 月 13 日認定の地域再生計画に基づくもの (平成 30 年度終了)。講演会、郷土読本・紙芝居作成のほか、これらを活用した郷土資源発見交流会、バスツアーなどを実施。

※2：平成 28 年 12 月 13 日認定の地域再生計画に基づくもの (令和 3 年度まで)。広域イベントの開催、プロモーションコンテンツ作成などを実施している。

(目標達成状況)

- ・平成 29 (2017) 年時点の観光入込客数は 264,552 人で目標人数 280,000 人に対し、達成率は 94.5%と概ね目標を達成している状況です。



(3) 政策目標 3 (川崎町における若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり)

(概要)

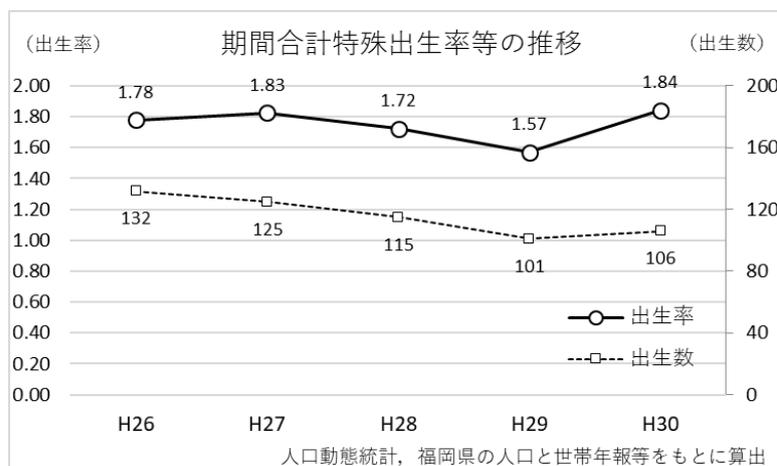
- ・土曜無料塾「土曜の風」や小中学校への ALT*派遣など学力向上推進事業を実施しました。
- ・小学校における放課後の居場所づくり (はばたけ塾、学びっこ教室など) や、町立小中学校へ電子黒板の導入を行いました。
- ・移住新婚世帯の引越し費用等一時金を助成したほか、子どもの医療・保育費の軽減化を図るなど、若い世代の生活支援が充実しました。

※：外国語指導助手

(目標達成状況)

- ・単年別の期間合計特殊出生率は年によって変動していますが、平成 26 (2014) 年から平成 30 (2018) 年の 5 年間の平均合計特殊出生率*は 1.74 で、目標値の 1.70 を上回っています。
- ・期間合計特殊出生率は平成 30 (2018) 年が最高を示していますが、出生数は全体的に低下の傾向を示しています。

※：5年間の平均5歳階級別女性人口に対する5年間の出生総数をもとに算出



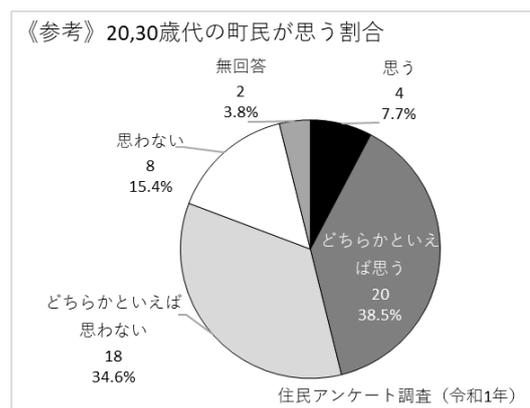
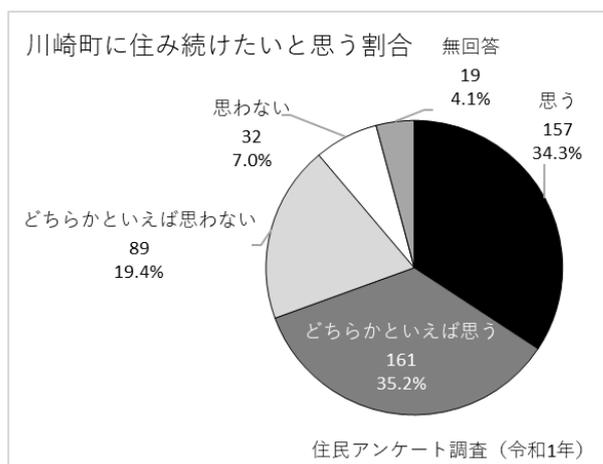
(4) 政策目標 4 (安全安心な暮らしを営むずっと住みたいまち 川崎町の実現)

(概要)

- ・平成 12 (2000) 年から続いている日中交流水墨画公募展を続けたほか、本町の文化を学ぶ課外授業を実施しました。
- ・大島運動場にグラウンドゴルフ専用の運動場を整備し、その大会のほかマインドスポーツ大会を実施しました。
- ・コミュニティバスを維持するとともに、超高速ブロードバンド環境の整備 (再掲) を行いました。
- ・戸山原古墳 2 号墳の発掘を進め、古墳まつりを実施しました。

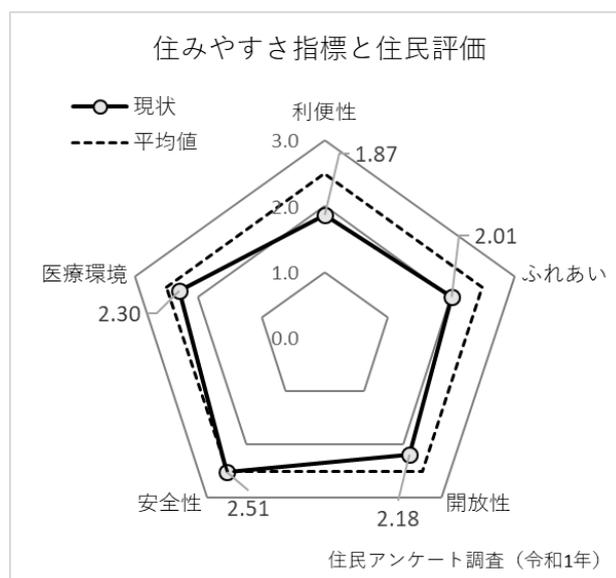
(目標達成状況)

- ・令和 1 (2019) 年時点で川崎町に住み続けたいと思っている町民の割合は 34.3%で、目標値 60%に対し、達成率としては、57.2%です。
- ・20 歳代、30 歳代の若い世代が住み続けたいと思っている割合は低くなっています。



《参考》

住みやすさ指標として利便性 (便利なまち)、ふれあい (ふれあい・連帯感のあるまち)、開放性 (開かれたまち)、安全性 (安全に暮らせるまち)、医療環境 (医療が受けられるまち) の 5 項目について、川崎町に対して「思う」に 4 点を「思わない」に 1 点をそれぞれつけて点数化すると、最も評価が高いのは安全性であり、最も低いのは利便性となっています。



3. 推進体制

■総合戦略の推進体制■

